

外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	外傷サーベイランス委員会
事務局(担当課)	セーフコミュニティ担当課
開催日時	2011年 3月22日(火) 13時30分～15時00分
開催場所	第二委員会室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷サーベイランスシステムについて <ol style="list-style-type: none"> ① サーベイランス取り組み方針について ② 外傷記録の統一について 2. 評価システムについて <ol style="list-style-type: none"> ① 対策委員会の取り組み評価について 3. その他
出席者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊島区池袋保健所所長 村主千明 委員長 2. 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 衛藤 隆 3. 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 石附 弘 4. 豊島区セーフコミュニティ推進協議会専門委員 市川 正雄 5. 豊島区医師会理事 高橋 清輝 6. 東京都消防庁豊島消防署救急技術担当係長 古木 康友 7. 東京都消防庁池袋消防署救急技術担当係長 來次 良弘 8. 豊島区政策経営部長 吉川 彰宏 9. 豊島区セーフコミュニティ担当課長、防災課、健康推進課、長崎健康相談所
提出資料	資料1 豊島区のサーベイランスの取り組み方針について(案) 資料2 外傷記録に関する資料(市川委員) 資料3 対策委員会の取り組みと評価について 資料4 救急搬送データを活用したアウトカム指標の確認について 資料5 第1回外傷サーベイランス会議録
議事要旨	要旨 ■豊島区のサーベイランスの取り組み方針 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊島区(東京23区)では、区民の生活圏が広く、医療機関の受診についても、区外など広範囲にわたっている。また、区内には、市民病院的な中核となる医療機関がなく、区民の外傷等に関する受診状況を医療機関から把握する仕組みを構築することは難しい。 ・ 一方、豊島区(東京23区)では、消防による救急搬送データが詳細に記録されており、将来にわたって継続的に、コストをかけることなく外傷データを入手することが可能である。

受傷者の情報、時間、場所、程度、原因について分析することで、外傷発生の原因と頻度を記録していくことが可能である。

- ・ 救急搬送データは、外傷サーベイランスの基盤として、課題があることは事実である。
- ・ 年齢性別、場所、受傷程度は説明されるが、原因について、直接的な事故発生時動作は分かるが、間接的な（より根本的な）説明が十分ではない。
- ・ 救急搬送の必要性が低い軽傷までカバーされない。
- ・ 区内居住者と区外居住者を分けることが難しい。（よい点でもある。）
- ・ しかし現時点では、日本社会において最も安定的かつ持続可能な方法であり、セーフコミュニティ認証申請に向けた「外傷サーベイランス」については、救急搬送データを中心に構築する。
- ・ ICECI についても、検討課題として認識し、学習を続けていくことを説明する。
- ・ 重傷については、主に上記の救急搬送データを活用するとともに、軽傷やインシデントについては、子どもや高齢者等に対するアンケート調査を2～3年に一度実施していくこととする。
- ・ アンケートから、居住形態の分析が重要。マンションや戸建等と分けて検討すべき

■救急搬送データを活用したアウトカム指標の確認について

- ・ 各重点テーマにおける予防活動に対して、区が行っている予防活動により現れる効果を、救急搬送データを用いて計るための指標を検討する。
- ・ 予防活動により重大なけがや事故を防止する観点から、救急搬送データにおけるけがの程度のうち、中等症以上のけがや事故に着目し、集計している。ただし、データの数が少ないため、データとして不安定であることが課題として考えられる。

以上